

<目次>

粉乳情報	脱脂粉乳 下落傾向	… 2-3 頁
バター情報	欧州産、軟化も引き続き世界との価格差大	… 3-4 頁
カゼイン情報	相場、徐々に上向く	… 4 頁
チーズ情報	アルゼンチン輸出税	… 5 頁
ホエイ情報	先月と傾向変わらず	… 6 頁
乳糖情報	米・欧ともに堅調	… 6-7 頁
国内情報	生乳生産量 災害で厳しい状況に	… 8-9 頁
主要生産国の現行乳価		… 9 頁
オセアニア情報	SDA 社 乳価を引き上げ	… 10-11 頁
欧州情報	蘭 FC 社 ソーラーパネル設置促進	… 12 頁
米国駐在員情報	米中貿易戦争 続報	… 12-14 頁
出典		… 15 頁

<粉乳情報>

- 脱脂粉乳相場 下落傾向 -

- 欧州 -

欧州産脱脂粉乳相場は、先月からの流れから上昇を続けていたものの、ここ 2 週間の内に急激に下落した。一時的なものと思われるが脱脂粉乳価格上昇を見て、需要が鈍化したものと考えられる。

9 月 18 日に行われた政府介入在庫の放出入札では 15 万 4,797 トンの入札数量に対し、8,983 トンの落札となった。尚、これまで月 1 回の開催となっていた放出入札は 10 月より月 2 回の実施となる。(12 月は 1 回。)

欧州産全粉乳は依然オセアニア産と比べると価格競争力に欠ける。欧州域内消費に向けた製造がほとんどであるが、域内需要が予想を上回っている模様にて、輸出余力は限られている。

- オセアニア -

オセアニア産脱脂粉乳相場は先月から比較すると若干下落したが、依然、製造者は脱脂粉乳より全粉乳の製造を優先しており、価格競争力も欧州産、米国産と比較すると有していない。

オセアニア産全粉乳相場は、先月から引き続き下落した。主要生産国であるニュージーランド(NZ)では天候に恵まれたことにも後押しされ、オフシーズンではあるが 6~7 月の生乳生産量は過去最高を記録。好調な滑り出しを見せた NZ の生乳生産は天候次第の面もあるが、今後の潤沢な供給を期待したい。

最新の gDT の結果は下記の通り。脱脂粉乳・全粉乳共に下落。

(2018 年 9 月 18 日開催、同年 9 月 4 日比較)

脱脂粉乳: USD 1,980/MT FAS (船側渡し価格)、-1.9%

全粉乳 : USD 2,768/MT FAS (船側渡し価格)、-1.2%

- 米国 -

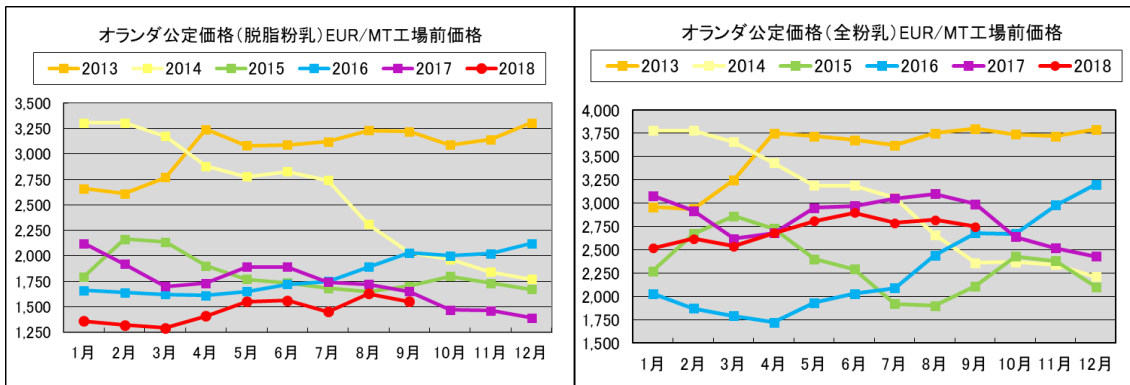
米国の NFDM*の価格は 9 月に入り、若干下落した。需要は好調であるものの、中国及びメキシコによる報復関税の影響もあり、在庫が増加していることが背景として挙げられる。

*NFDM : Non Fat Dry Milk (たんぱく非調整脱脂粉乳)

- 今後の展望 -

欧州の天候も徐々に回復はしてきたが、熱波が続いたことによる干ばつが飼料生産に影響を与える可能性大と一部のサプライヤー間で話が出ている。本来、冬場に与える予定であったサイレージ飼料を干ばつによる牧草不足で夏場に与えたことにより、飼料不足に陥ることが不安視されている。また、豪州においても深刻な干ばつが報じられている。被害に見舞われたニューサウスウェールズ(NSW)州やクイーンズランド(QLD)州は飼料穀物生産地域であるが、穀物飼料の価格高騰や、飼料不足による生乳の減産で脱脂粉乳相場上昇に繋がる可能性が高いと考える。

全粉乳については、オセアニアの新シーズンが始まったばかりではあるが中国の動きがまだ活発ではない。年末にかけて動きが本格化すれば、オセアニアの生乳生産がこれからピークに差し掛かってくるとは言え、相場が反転する可能性もあり、早めに調達することが賢明かもしれない。



(現在の粉乳取引価格)

EU 産脱脂粉乳価格 (ADPI EXTRA GRADE)	:	USD 2,050 – 2,450 /MT CFR ASIAN PORT
EU 産全粉乳価格 (ADPI EXTRA GRADE)	:	USD 3,800 – 4,200 /MT CFR ASIAN PORT
オセアニア産脱脂粉乳価格 (ADPI EXTRA GRADE)	:	USD 2,100 – 2,350 /MT CFR ASIAN PORT
オセアニア産全粉乳価格 (ADPI EXTRA GRADE)	:	USD 3,200 – 3,450 /MT CFR ASIAN PORT
米国産脱脂粉乳価格 (ADPI EXTRA GRADE)	:	USD 2,050 – 2,300 /MT CFR ASIAN PORT

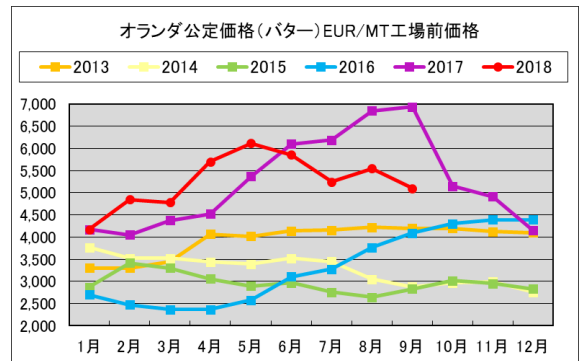
<鷹井>

<バター情報>

- 欧州乳脂肪相場 引き続き世界と大きな価格差 -

- 欧州 -

欧州の乳脂肪相場は、他主要産地の価格と比較するとまだ大きな差があるものの、9月に入り軟化している。8月中旬まで熱波及び干ばつに見舞われていたが、8月中旬以降はまとまった雨が降るようになり、例年通りの天気に戻っている。天候改善によって生乳生産の回復の兆しが見えたことや、熱波による欧州でのバター消費意欲が減退した事、相場高騰を見込んでバター在庫を抱えていたトレーダーが在庫を市場に放出した事などが欧州の乳脂肪相場軟化につながったものと推測される。



オランダのバター公定価格は8月末時点の価格(EUR5,550/MT 工場前渡し)と比較すると、EUR450/MT 値下げの EUR5,100/MT 工場前渡しと公表されている。ドイツのバター公定価格は8月末時点では EUR5,650-5,850/MT 工場前渡しであったが、9月末時点でのバター公定価格は EUR5,000-5,300/MT 工場前渡しであった。

現在、欧州の乳業会社は総じて酪農家にとって十分魅力的な乳価を設定している為、酪農家の生産意欲は高いと思われる。しかし、今年夏の飼料生産が天候不順により不調であった事が今後の飼料コストに影響を及ぼす可能性がある。

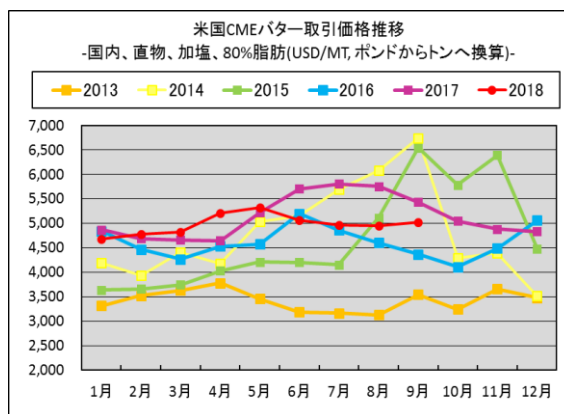
- オセアニア -

9月のGDTオークションの結果はバター、AMFともに下げとなっている。2018年9月18日のバター平均落札価格はUSD4,270/MT FAS(船側渡し)となり、8月21日の結果(USD4,392/MT FAS)と比較すると2.8%の値下げとなっている。AMFも同様に9月18日の平均落札価格はUSD5,294/MT FASとなり、8月21日の結果(USD5,321/MT FAS)と比較すると、0.5%の値下げとなっている。

2018年1-7月のNZのバター輸出量は昨年同時期比、21.7%増加となっており、豪州のバター輸出量は6.4%の減少となった。NZの生乳生産は好調で、8月の生乳生産量は昨年同月比、4.6%増加となっている。今後春先から夏場にかけて生乳生産量が増えていく事が見込まれる為、供給余力は十分にあると思われる。

- 米国 -

2018年8月末時点のバター在庫量は前年同月比+1.9%の約13万1,900トンで、前月から約1万2,000トン減少した。2018年8月の米国生乳生産量は昨年同月比1.4%増加している。バター生産量も昨年よりも多いが、国内外からの需要も強く、バランスの取れた状態である。



2018年8月のバター取引価格

(換算レート EUR/USD1.17)

EU産バター価格	USD6,900～USD7,200/MT CFR ASIAN PORTS
NZ産バター価格	USD4,700～USD5,100/MT CFR ASIAN PORTS
豪州産バター価格	USD5,200～USD5,900/MT CFR ASIAN PORTS
米国産バター(無塩 82%脂肪)価格	USD5,600～USD5,900/MT CFR ASIAN PORTS

<林>

<カゼイン情報>

- 相場、徐々に上向く -

カゼイン相場は横ばいから徐々に上向いている。

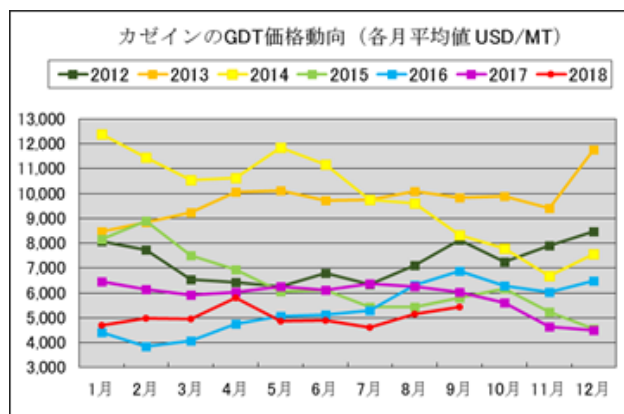
供給面では、主要産地の一つである欧州における生乳生産量の低下により、カゼイン生産自体も予想より減少。もう一つの主要産地であるニュージーランド(NZ)においてもハイシーズン到来というには時期尚早であり、カゼイン在庫水準は低下している。

需要面では、ほとんどの需要者は第3四半期分と一部第4四半期の手当てを済ませており、残った第4四半期の手当てを検討し始めている。しかし、直近の相場上昇を鑑みつつ一方でNZの今後の供給増に期待し、まとまった量の購買は控えるユーザーが多い模様。

今後については、欧州における生乳生産量は、季節柄大きく盛り返すのは難しいものと考えられ、NZの生乳生産量がどのように進むかがカギとなる。8月時点でのNZの生乳生産量は、昨年同時期の生産量が低迷していたこともあり、昨年対比4.6%増となっている。今後も生乳生産が好調であればカゼインの相場の継続的な上昇は考えにくい。一方で、生乳生産が想定より伸びない、或いは脱脂粉乳・クリーム/バターの生産に舵を切った場合、ヨーロッパからの供給が回復するまでカゼインの供給量が一時的に低下することが予想され、相場も堅調と思われる。よって、今後はNZの生乳生産並びにカゼインの生産状況を注視する必要がある。

- レンネットカゼインのGDT 過去3カ月の落札価格 -

入札日	カゼイン(単位:MT)
2018年7月3日	USD5,089
2018年7月17日	USD4,602
2018年8月7日	USD4,971
2018年8月21日	USD5,138
2018年9月4日	USD5,326
2018年9月18日	USD5,421



<作田>

<チーズ情報>

- 米国内 チーズ需要増による在庫量減少 -

USDA(米国農務省)によると、8月末の米国内のチーズ在庫量は前年同月比1.9%増の約61万7,193トンであった。7月末から8月末にかけて2万4,000トン減少しており、2004年以来最大の減少量となっている。その内アメリカンタイプのチーズ在庫量は前月比4.4%減、前年同月比1.7%減の35万7,414トン。

米国駐在員情報の通り生乳生産は依然として好調で、8月の生乳生産量が前年同月比1.4%増であったことを考えると、上記の急激な在庫量減少はチーズ需要が堅調であることを示している。

- アルゼンチン 生乳生産増も輸出品に課税 -

南米における生乳生産量は引き続き増加している。降雨に恵まれ牧草の生育及び飼料作物の出来も好調で、酪農家の飼料コスト低減が乳量増加に繋がっており、アルゼンチンでは10ヶ月連続で生乳生産量が続伸。好調な生乳生産に対して、既報の通り同国の経済危機による輸出産業への影響が懸念されている。

アルゼンチンでは生乳生産量の80%以上が国内向けで消費されているが、今後更に経済危機が深刻化した場合にペソ安の影響で物価が上昇し、消費者が乳製品を買い控える可能性が考えられる。

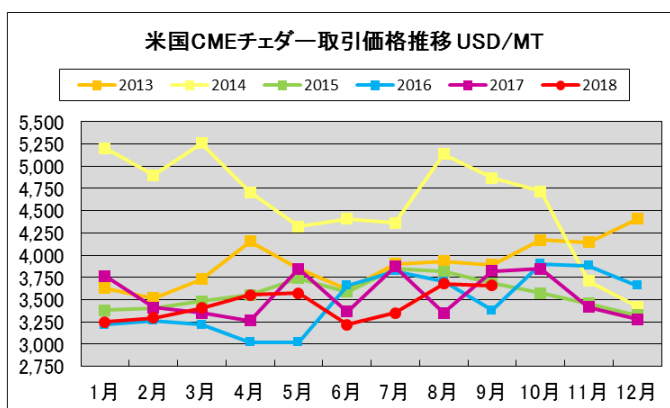
生乳生産量の増加と国内需要の鈍化により乳製品輸出の拡大が予想されるが、その一方でアルゼンチン政府が行っている輸出品への課税政策が注視されている。乳製品に対しては1米ドルあたり3アルゼンチンペソの輸出税を課すとしており、現在のレートではおよそ8%の税金に相当する。財政再建のため今後さらに増税となる可能性も報じられており、現在の競争力のある状況がいつまで続くか注目される。

- 欧州 生乳生産量の回復 -

欧州では干ばつによる影響で今年の生乳生産量が前年を下回る可能性が心配されていたが、夏場の纏まった降雨による天候改善と乳価の上昇に助けられ、一転して生乳生産量は増加し前年を上回る見通しが強くなっている。1月～7月の累計乳量は前年比1.7%増。各国の主要乳業メーカーは支払い乳価を6月以降毎月引き上げており、現在の水準を維持する事が出来れば今後さらなる生乳生産量の増加と、欧州チーズ相場への影響が注目される。

- 米国 CME 相場 -

2018年9月のCMEブロックチェダースポット相場は27日時点でUSD3,660/MT(現地工場出し価格)であった。国内需要が堅調でスポット相場は年末需要期に向けて堅調に推移するものと予想される。CME先物相場に関しては、11月積みピークで年始にかけては例年通り緩む傾向が続いている。



<近藤>

<ホエイ情報>

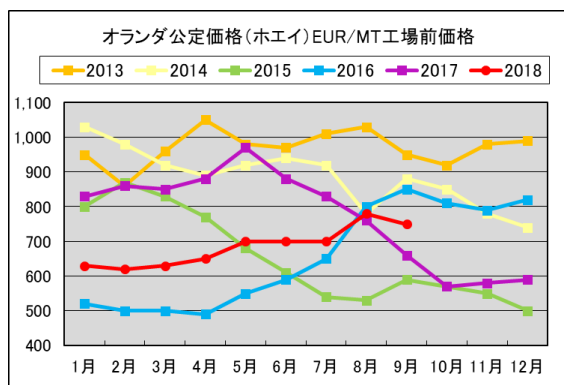
- ホエイパウダー -

米国産ホエイパウダーの相場は前月と変わらず、上昇傾向で推移している。引き続き米国内、海外からの引き合いは堅調である。前月まで頻繁に行われていたスポット取引は、相場が高値のため落ち着きをみせている。

米国産ホエイパウダーの2018年1月～7月輸出量は、前年同月比17%増の13万6,353トン。同時期の国別の輸出量は、フィリピン向けが約1万373トン(前年同月比17%増)、続いて日本向けが約8,425トン(同比43%増)、メキシコ向けが約8,295トン(同比5%増)、ベトナム向けが約7,750トン(同比250%増)である一方、最大の輸出先である中国向けは、同比8%減の5万2,390トンとなっている。米中貿易戦争の影響と見られる。

他方、東南アジア地域への輸出量は前年比56%の増加となっており、更に輸出量は伸びると考えられる。

欧州産ホエイパウダー相場は前月と同水準で推移。現状、各メーカーによる供給は欧州域内と輸出向けの需要を補えているが、欧州域内での長らく続いた干ばつによる飼料収穫減や牧草育成不良の影響により、ホエイパウダーについても、今後の供給が不安定となる懸念が高まっている。前月まで最高値更新が続いていたことから、今後も相場の動きに注意が必要である。



- WPC34 -

米国産 WPC34 の相場も上記ホエイパウダーと同様に上昇傾向となっている。特に育児粉乳用途の需要が強く、需給は逼迫している。一般規格の WPC34 は年末から翌年にかけての数量確保の為、スポット取引が頻繁に行われていることを背景に、メーカー数社が増産を開始しており、今後の市場動向に備えていると考えられる。

<深澤>

<乳糖情報>

- 相場、米・欧ともに堅調 -

- 欧州 -

欧州産乳糖相場は上昇。欧州の1月から7月までの累計生乳生産量は昨年対比1.7%増となった。

依然としてチーズ生産は好調で、1月から7月までの累計生産量は昨年対比2.1%増となった。よって原料ホエイ及び乳糖の供給も安定している。しかし、需要面では、脱脂粉乳の生産量が昨年対比4.5%増と伸びており、脱脂粉乳のたんぱく調整用途での乳糖需要が強い。米国の相場上昇に牽引される格好となり、先月に続き相場は上昇する結果となった。

今後の供給面では、生乳がチーズとホエイの生産組合せよりも脱脂粉乳・バターに優先して使用されることが予想され、乳糖の大幅な生産量増加は考えにくい。需要面では脱脂粉乳の生産量増加に伴い、たんぱく調整用途での乳糖需要が更に強まることが予測される。また中国が米国の乳糖に対し報復関税をかけた為、中国のユーザーから欧州産乳糖への引き合いが増加されることが予想される。需給のバランスや米国の相場上昇を考慮すると、今後の欧州産乳糖相場は堅調と思われる。

国別乳糖輸入量:8月時点での累計(単位/トン)			
	2017	2018	(%)
オランダ	5,196	3,743	-28
フランス	1,172	728	-38
ドイツ	11,475	8,160	-29
カナダ	2,102	2,756	31
米国	29,733	30,173	1
豪州	0	0	-
ニュージーランド	2,145	2,282	6
その他	1,385	1,080	-22
合計	53,208	48,925	-8

- 米国 -

米国産乳糖相場も依然として堅調。生乳生産量は好調、国内でのチーズ需要に支えられチーズ生産も好調。そのため原料ホエイも潤沢に出てきている。乳糖の生産量も前月比較で増加したものの、依然として優先的に原料ホエイをホエイパウダーに使用する動きは変わらず、大幅増には至っていない。8月の米国主要23都市における生乳生産量は昨年対比1.4%増、7月のチーズ生産量は昨年対比3.7%増(前月対比2.7%増)、乳糖生産量は昨年対比3.1%減(前月対比3.5%増)となっている。需要面では、製菓用途・育児用粉乳用途・脱脂粉乳のたんぱく調整用途での乳糖需要は変わらず強い。さらにホエイパウダーの代替としての乳糖に対する引き合いが多くなったことから、需要は一層の高まりを見せた。乳糖の生産増が需要増に追いついておらず、7月の米国内在庫は昨年対比38.4%減とかなりタイトになっている。

今後の供給面では、ホエイパウダーの米国内在庫がかなりタイトであることから、引き続き原料ホエイをホエイパウダーの生産に優先的に使用することが予測され、乳糖の大幅な生産量増加は考えにくい。需要面では、在庫がタイトなことから製菓向けに乳糖を使用している一部のユーザーで、代替品として他の甘味料を探す動きが出ており、一時的に乳糖の製菓向け需要が弱まる可能性がある。加えて、一番の輸入先である中国が乳糖に対する報復関税をかけたことから、中国からの需要は減少すると思われる。しかし、育児用粉乳用途や脱脂粉乳のたんぱく調整用途での乳糖需要が相変わらず強く、在庫量も多くないことを考慮すると、引き続き相場は堅調と予測する。

- 米国からの乳糖輸出量累計(2018年7月) -

1. 中国	61,128	トン
2. ニュージーランド	26,926	トン
3. メキシコ	27,105	トン
4. 日本	25,757	トン
5. インド	13,015	トン
6. ベトナム	11,533	トン
7. 韓国	10,576	トン
輸出量総計	244,025	トン

- 米国の乳糖生産量と在庫量(2018年7月) -

乳糖生産量	43,150トン	前年比 3.1%減
月末在庫	40,599トン	前年比 38.4%減

<柴崎>

<国内情報>

- 全国生乳生産量 8月は前年比増も、9月は災害で厳しい状況に -

- 生乳生産 -

農林水産省が発表した2018年8月の全国生乳生産量は60万6,791トン。前年同月比1.0%増となり11ヶ月連続で前年を上回った。地域別では北海道が33万9,541トンで同2.8%の増となった一方で、都府県は26万7,250トンで同1.2%減、30ヶ月連続で前年対比減産。

ホクレンによると、9月6日に発生した北海道胆振東部地震とその後の停電の影響で、ホクレン出荷農家の9月上旬の生乳廃棄量が推計で約2万トンに上ることが明らかになった。9月上旬の生乳受託乳量は前年比16.1%減の8万6,091トンとなり、地震発生前の8月下旬と比較すると18.7%落ち込んだ。ホクレンが9月25日に発表した9月中旬の生乳受託乳量・速報値は前年比0.5%減で、9月上旬から大きく回復したが、乳房炎の多発など震災の後遺症が残り、前年を割り込んだ。

今夏は記録的猛暑の影響で、特に都府県の生乳生産が減少している中、台風21号の影響から生乳の輸送がストップし、需給が逼迫した。猛暑、台風、震災と全国的に災害が続き、今後生乳・乳製品の需給にどのような影響を及ぼすかは不透明な部分が大きく、今後の状況を注視する必要がある。

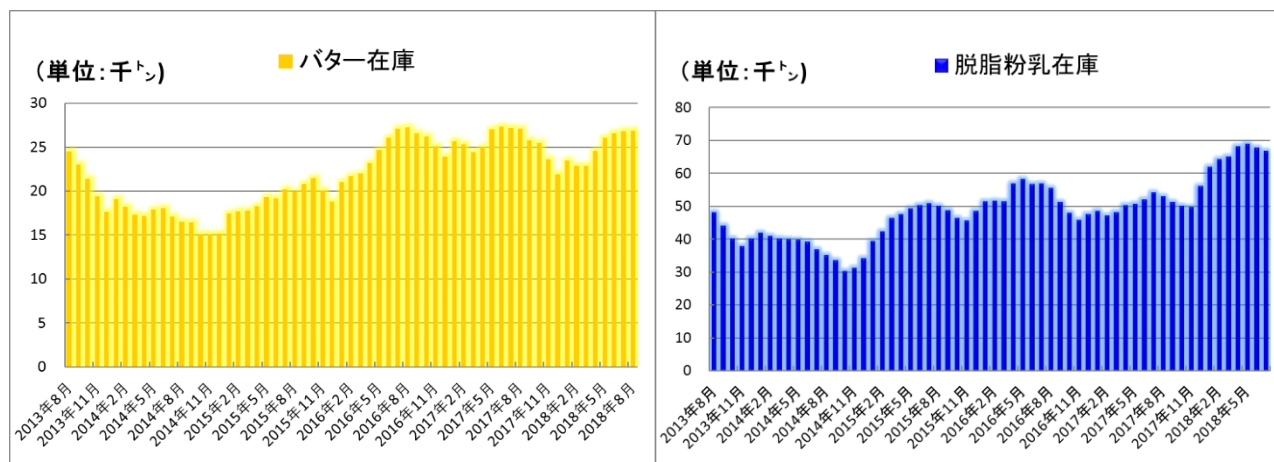
- バター -

農林水産省が発表した2018年8月のバター生産量は4,932トン。前年同月比0.6%減となり、在庫量は2万6,958トンで同0.4%減となった。農畜産業振興機構は9月13日に、18年度輸入枠のバター1,000トンのSBS方式の入札を実施。業務委託入札には9者3,159.1トンが応札し、競争倍率は3.16倍。落札平均価格は1キロあたり802.991円となった。売渡は6者が落札し、落札平均価格は同978.103円であった。

北海道胆振東部地震の影響で、国産バターの需給が先行き不透明な状況となっている。9月以降は大手各社が家庭用バターの供給を優先し、業務用バターの供給量は減少している。国内の乳製品ユーザーの間では、業務用国産バターの需給逼迫が長期化すると見越し、輸入品確保の動きが活性化した。結果、8月23日のSBS方式のバター入札時の競争倍率2.3倍に比べ、9月の入札は倍率が大きく上がった。10月以降のバター入札の競争が更に厳しくなる可能性がある。

- 脱脂粉乳 -

農林水産省が発表した2018年8月の脱脂粉乳生産量は9,581トンで前年同月比0.1%減。在庫量は6万5,115トンで同22.7%増。2018年初から、月末在庫量は前年同月比を大幅に上回る状態が続いている。北海道の震災の影響が今後脱脂粉乳の需給にどのような影響を及ぼすかは不透明であるが、今後脱脂粉乳の入札が行われれば、競争が厳しくなる可能性がある。



2018(平成30)年度 単月生乳生産量 (単位:千トン)

	生乳生産量	牛乳等向け		乳製品向け	その他
			内業務用		
8月	606	333	27	269	4.1
前年同月比	101.00%	101.80%	104.40%	100.20%	101.00%

2018(平成30)年度、バター需給予想(単位:トン)

	生産量	前年比	消費量	前年比	在庫量	前年比	月数
第1四半期	16,613	99.1%	18,791	120.3%	26,500	97.0%	4.1
第2四半期	12,819	101.8%	14,219	92.5%	28,300	104.6%	4.4
第3四半期	12,400	92.2%	20,600	75.8%	23,300	106.2%	3.6
第4四半期	17,200	99.6%	17,500	92.4%	26,200	102.8%	4.1
合計	59,032	98.2%	71,110	92.2%	26,200	102.8%	4.1

在庫量はカレントアクセスによる輸入バター(民間)を含む

2018(平成30)年度、脱脂粉乳需給予想(単位:トン)

	生産量	前年比	消費量	前年比	在庫量	前年比	月数
第1四半期	32,103	98.3%	23,219	63.4%	66,900	124.6%	5.4
第2四半期	25,031	99.0%	41,131	114.6%	58,700	110.6%	4.7
第3四半期	27,900	92.2%	36,900	120.0%	57,600	102.7%	4.6
第4四半期	33,300	99.7%	35,400	78.0%	63,400	126.5%	5.1
合計	118,334	97.3%	136,650	91.9%	63,400	126.5%	5.1

在庫量はカレントアクセスによる輸入脱脂粉乳(民間)を含む

<帆秋>

<主要生産国の現行乳価>

	円換算乳価※1	適用期間	直近の乳価
日本	¥98.71/リットル	2018年7月	¥95.74/kg※2
ドイツ	¥45.17/リットル	2018年7月	EUR33.19/100kg
オランダ	¥48.65/リットル	2018年7月	EUR35.75/100kg
アイルランド	¥43.09/リットル	2018年6月	EUR31.66/100kg
米国	¥39.90/リットル	2018年7月	USD15.40/100ポンド(100ポンド=45.3592kg)
豪州	¥37.09~37.73/リットル	2018/19年度	AUD5.85~5.95/100kg MS(乳固形kgあたり)※3
NZ	¥39.15/リットル	2018/19年度	NZD6.75/kg MS(乳固形kgあたり)

※1 生乳1リットルあたりに換算した概算価格。生乳比重は1.031で計算。

※2 総合乳価。用途別に異なる乳価の総加重平均の価格で、実際に酪農家に支払われた乳代。消費税抜き。

※3 為替レート EUR=¥132.00 USD=¥114.00 AUD=¥82.00 NZD=¥75.00

<出典> 日本: 農畜産業振興機構HP EU: European Commission HP 米国: CLAL HP 豪州: 当社調べ NZ: Fonterra HP

<オセアニア情報>

- Saputo Dairy Australia 社 乳価を改定 -

9月25日豪州最大の乳業会社である Saputo Dairy Australia 社(以下 SDA 社)が酪農家への支払乳価を改定し、AUD5.75/kg(約 36.46 円)乳固形から AUD5.95/kg(約 37.73 円)乳固形に上げる事を発表した。Saputo 社は基本的には四半期に一度乳価の見直しを行うのが恒例であり、豪州乳業年度(搾乳シーズン)が始まった 7 月から丁度 3 か月が経過したこのタイミングで乳価改定を行ったと思われる。この新乳価は 10 月から適用され、10 月以降酪農家はこの乳価にて支払いを受ける事が可能になる。この乳価改定の背景には、DA(豪州乳製品協会)が発表している豪州生乳生産量が、今シーズン 7 月から現在までの累計で前年対比 4.2%減少しており、また速報では今月 9 月までの生産量累計でも 3.9%減少という数字になっている模様で、限られた生乳の獲得競争がさらに激化すると考えた上での乳価改定と思われる。

各主要乳業会社の乳価は下記の通り。SDA 社は、主要乳業会社の中では最も早く新シーズンの乳価を 6 月に発表した。その翌日に Fonterra 豪州社が、SDA 社の乳価よりも AUD0.10/kg(約 63 銭)乳固形だけ高い AUD5.85/kg(約 37.09 円)乳固形にて新乳価を発表し、その数日後に Bega 社も同様に AUD0.10/kg 乳固形高い乳価設定を発表した。SDA 社の今シーズンの第 1 四半期乳価は主要乳業会社の中では最も安い設定となっていた為、最低でも Fonterra 豪州もしくは Bega 社の乳価レベルに乳価改定を行うと予想されていた。また豪州全体の乳生産量が落ち込んでいる中で、中小の乳業会社(Bulla 社、UDC 社など)もしくは ACM 社のような生乳ブローカーが非常に高い乳価設定を行っている事で、SDA 社として最低でも Fonterra 豪州社、Bega 社の乳価よりも高い値段設定にする必要があったと思われる。

現在、豪州東部の干ばつの影響で同地域の生乳生産量低下が見られる事と、その影響で穀物飼料価格が高騰、酪農コスト圧迫の為に豪州全体の生乳生産量が低調に推移している。また豪州主要生乳生産地域のビクトリア(VIC)州でも降雨量は例年よりも少なく、灌漑水の費用なども例年よりも 3 倍程度になっている。ビクトリア(VIC)州でも今後の生乳生産量の影響が心配されている。そのような環境の中、酪農家にとって生乳の支払乳価は非常に重要であり、その他主要乳業会社も価格改定を行う可能性は少なくない。引き続き豪州生乳生産量と乳業会社の乳価設定が注視される。

Saputo Dairy Australia 社 (旧 MGC + WCB 社)	AUD5.95/kg 乳固形 (旧 AUD5.75/kg 乳固形)
Fonterra 豪州社	AUD5.85/kg 乳固形
Bega 社	AUD5.85/kg 乳固形
Burra Foods 社	AUD5.60-5.90/kg 乳固形
Parmalat 社	AUD5.90/kg 乳固形
Lion Dairy 社	AUD5.82-6.10/kg 乳固形
Bulla 社	AUD6.25/kg 乳固形
Union Dairy Company 社	AUD5.80-6.05/kg 乳固形
Australian Consolidated Milk 社	AUD6.00/kg 乳固形

*乳価レンジがあるものについては、1 年契約~複数年契約などその他契約内容によって乳価が異なる。

- 豪州ビクトリア(VIC)州の降雨量 2018年9月25日現在 (mm) -

	9月降雨量	昨年同月降雨量	平年	平年比
Tatura (北部)	15.4	10.4	44.2	-65.2%
Warmambool (西部)	34.0	141.6	75.4	-54.9%
Bairnsdale (東部)	18.6	30.6	56.4	-67.0%
Albury (北東部)	19.0	13.8	57.5	-67.0%
Melbourne	15.0	39.6	55.6	-73.0%

- ニュージーランド(NZ)主要都市の降雨量、2018年8月 (mm) -

	8月降雨量	昨年同月降雨量	平年	平年比
South Auckland (北島)	110.6	95.5	121.0	-8.6%
Taranaki (北島)	133.4	217.4	123.0	+8.5%
North Canterbury (南島)	17.4	80.0	60.0	-71.0%
Southland (南島)	56.8	31.9	75.0	-24.3%

- 豪州生乳生産量 -

単位: 百万リットル

	2018年7月(前年同月比)	2018年7月～累計(前年同時期比)
NSW	90.2 (-4.6%)	90.2 (-4.6%)
Victoria	413.8 (-4.9%)	413.8 (-4.9%)
Queensland	31.8 (-10.2%)	31.8 (-10.2%)
South Australia	38.1 (+9.3%)	38.1 (+9.3%)
Western Australia	29.3 (-6.2%)	29.3 (-6.2%)
Tasmania	27.5 (+1.4%)	27.5 (+1.4%)
Australia	630.7 (-4.3%)	630.7 (-4.2%)

- 豪州ビクトリア(VIC)州の地域別生乳生産量 -

単位: 百万リットル

	2018年7月(前年同月比)	2018年7月～累計(前年同時期比)
東 部	118.5 (+0.4%)	118.5 (+0.4%)
北 部	120.1 (-7.1%)	120.1 (-7.1%)
西 部	175.2 (-6.7%)	175.2 (-6.7%)
ビクトリア(VIC)州全体	413.8 (-4.9%)	413.8 (-4.9%)

(為替レート AUD=¥82.00 を使用)

<メルボルン駐在 Lacto Oceania Pty Ltd. 松本>

<欧州情報>

- EU 政府 脱脂粉乳介入在庫売り渡し・買い入れ状況 -

9月18日に行われた脱脂粉乳介入在庫の放出入札では、入札対象数量15万4,797トンに対して5万2,325トンの応札があり、8,983トンが落札となった。落札最低価格は前回と変わらず EUR1,230/MT であった。次回入札は10月2日、対象数量は14万5,814トンを予定している。脱脂粉乳の介入在庫数量は未だ23万トンを超えるレベルにある。なお次回より、12月を除き月に2度入札が実施され、12月は月に1度のみ入札が実施される。

EU 介入在庫放出入札結果

入札日	入札対象数量	応札数量	落札数量	応札価格	最低落札価格
2018年1月16日	101,061	25,764	1,864	EUR 700-1,350	EUR 1,190
2018年2月20日	99,196	35,465	4,337	EUR 650-1,270	EUR 1,110
2018年3月20日	95,079	37,712	4,127	EUR 501-1,121	EUR 1,050
2018年4月17日	90,952	91,855	24,066	EUR 501-1,705	EUR 1,051
2018年5月15日	115,112	124,360	41,958	EUR 500-1,277	EUR 1,155
2018年6月19日	144,844	39,836	23,532	EUR 995-1,400	EUR 1,195
2018年7月17日	121,315	27,768	2,408	EUR 958-1,200	EUR 1,125
2018年8月28日	118,907	64,207	31,493	EUR 905-1,401	EUR 1,230
2018年9月18日	154,797	52,325	8,983	EUR 1,045-1,350	EUR 1,230

- オランダ Friesland Campina 社傘下酪農家牛舎を活用した太陽光発電 -

オランダ最大の乳業メーカーである Friesland Campina 社は、傘下酪農家の牛舎屋根へのソーラーパネルの設置を推進している。経済産業省の“SDE+(持続可能エネルギー生産の推進)”の助成金を活用し2017年よりこのプロジェクトを開始している。当初344戸の酪農家からスタートし、現在は772戸の酪農家が同プロジェクトに参加、合計84万枚のソーラーパネルが順次設置される予定である。この84万枚のソーラーパネルで生産される電力は、オランダにある Friesland Campina 社の全工場とオフィスに必要な電力の半分に相当する。

また、同プロジェクトに参加している772戸の酪農家に加えて、2,200戸の傘下酪農家が同プロジェクトとは関係なく既に独自でソーラーパネルを導入している。Friesland Campina 社傘下酪農家による太陽光発電により、オランダ国内で必要な電力の12%を賄えるというアムステルダム大学学生の調査結果がある。

<アムステルダム駐在 Lacto Europe B.V.吉田>

<米国駐在員情報>

- 米国政府は2,000億米ドル相当の中国製品に対する追加関税を発動（第3弾） -

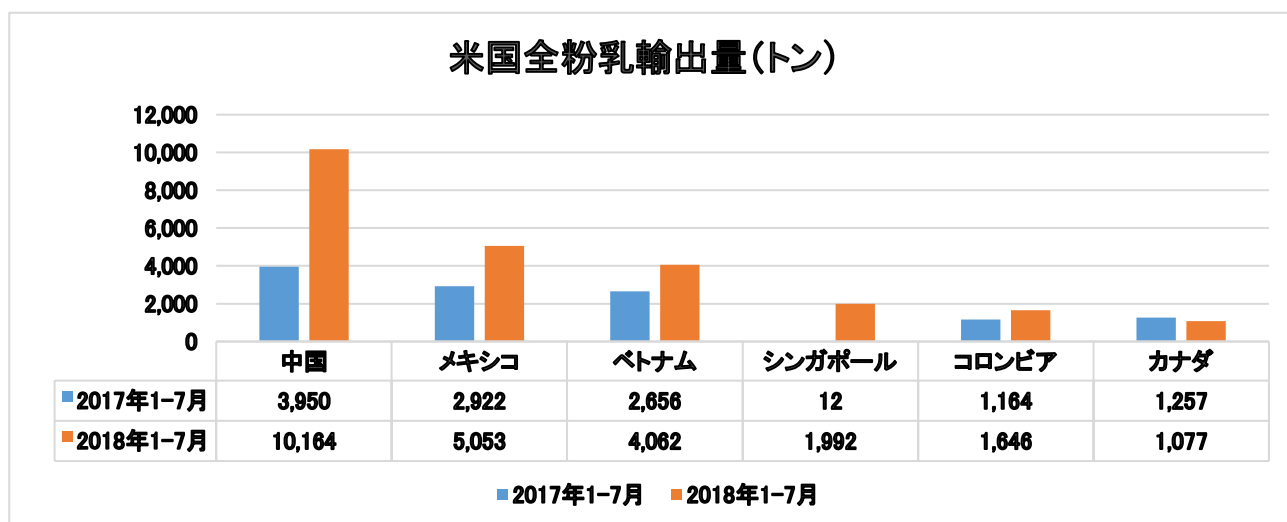
米国政府は9月24日付けで2,000億米ドル(23兆円弱)相当の中国製品に対する追加関税を発動させた。2018年7月6日の340億米ドル(約3兆9,000億円)、2018年8月23日の160億米ドル(約1兆8,000億円)に続き3回目となる。今回は5,745品目が対象となり、2,000億米ドル相当の中国製品に10%の関税を追加する形となる。今後、米中間貿易交渉が米国にとって有利な結果とならなかつた場合には、2019年1月1日より関税を10%から25%に引き上げると米国政府は発表している。米国による第3弾の追加関税を受けて、中国政府は直ちに米国製品5,027品目、600億米ドル相当(約6兆8,000億円)に5~25%の追加関税を課す報復措置を実施。双方第3弾時点での追加関税対象額の合計は米国2,500億米ドル(約29兆円)、中国からの輸入額は約5,000億米ドル/年(約57兆円)、中国1,100億米ドル(約12兆5,000億円)、米国からの輸入額は約1,300億米ドル/年(約14兆8,000億円)となり、乖離が出始めた。今回、中国の追加関税実施では乳糖、育児粉乳、カゼインが対象とな

り、ほぼ全ての米国産乳製品が対象となった。中国からの買いが弱まれば、市場は不安定となり相場にも少なからず影響が出る事が予想される。米中貿易戦争についての双方の会談は今年 11 月実施予定の米国中間選挙後になる見方が強い。(1 兆円未満は四捨五入)

- CWT 補助金付き輸出が 45 万トン(生乳換算ベース)突破 -

CWT(Cooperatives Working Together-酪農協共同基金)は 2018 年 9 月 10 日付けで、同基金の援助を受けて今年輸出された米国産乳製品の合計数量が 2018 年 8 月末時点で 45 万トン(生乳換算ベース)を突破したと発表した。この数字は 2018 年 8 月までに前年比で増加した米国生乳生産量(約 82 万トン)の 50%を占めるとしている。9 月 10 日時点でアメリカンタイプチーズ 2 万 2,500 トン、バター 5,800 トン、全乳粉 2 万 700 トンが CWT の補助を受け、34ヶ国に輸出されており、2016 年比較、アメリカンタイプチーズは同水準、バターは 7.3%増、全乳粉は 292%増となっている。全乳粉については、2018 年 7 月末時点の在庫量が前年同月比 37.2%増の 5 万 1,856 トンと余剰気味となっている事から、輸出に向けられる数量も増えているものと思われる。2018 年 1-7 月累計の米国産全乳粉の主な輸出先は下記の通り。

*CWT とは・・・2003 年 7 月に設立。Cooperatives Working Together の略で酪農協共同基金と呼ばれている。米国の NMPF(National Milk Producers Federation、全米酪農生産者連盟)が運営しており、①生乳の生産調整に関する酪農家への補償 ②駄牛淘汰プログラムへの補助 ③乳製品輸出プログラムへの補助を目的としている。



<HSコード: 040221、040229 の合計>

- 8 月の主要 23 州生乳生産量 -

米国農務省(USDA)の発表によると 8 月の主要 23 州の生乳生産量は 780 万 8,800 トンで前年同月比 1.4%増となった。先月発表の 7 月の生乳生産量は前年同月比 0.5%増の 785 万 4,200 トンへ上方修正された。

主要 23 州における 8 月の一頭当たりの平均搾乳量は約 896 キロで前年同月を約 12.7 キロ上回り、2003 年に統計データを取り始めて以来、8 月単月の数字としては過去最高となった。

主要 23 州における 8 月の平均乳牛頭数は 874 万頭と発表され、前年同月比 3 千頭減、前月比 4 千頭増。

- 2018年8月主要州別生乳生産量(前年同月比) -

カルフォルニア州	1,499,562トン	+1.2%	(+17,252トン)
ウィスコンシン州	1,191,296トン	+1.4%	(+16,344トン)
ニューヨーク州	580,212トン	+1.7%	(+9,534トン)
アイダホ州	595,194トン	+0.9%	(+5,448トン)
テキサス州	498,946トン	+9.5%	(+43,130トン)
ミシガン州	430,392トン	-0.6%	(-2,724トン)
ペンシルバニア州	400,428トン	-2.6%	(-10,896トン)
ミネソタ州	385,900トン	+1.4%	(+5,448トン)
ニューメキシコ州	311,898トン	+0.4%	(+1,362トン)
ワシントン州	261,050トン	+2.0%	(+4,994トン)

- 2018年7月米国産主要乳製品生産量 -

バター	61,853トン	前年同月比	+0.5%	前月比	-4.4%
チーズ	495,229トン	前年同月比	+3.7%	前月比	+2.7%
(うちアメリカンチーズタイプ)	199,681トン	前年同月比	+6.1%	前月比	+2.3%
(うちイタリアンチーズタイプ)	210,434トン	前年同月比	+2.6%	前月比	+3.2%
NFDM(食用)	66,610トン	前年同月比	-3.4%	前月比	-0.1%
SMP	21,601トン	前年同月比	-0.5%	前月比	-19.3%
ホエイパウダー	41,492トン	前年同月比	-9.0%	前月比	+4.1%
WPC	18,316トン	前年同月比	-2.1%	前月比	+1.2%
乳糖(食用、餌用)	43,150トン	前年同月比	-3.1%	前月比	+3.5%

- 2018年7月末米国産主要乳製品在庫量 -

バター	144,393トン	前年同月比	+3.5%	前月比	-5.5%
チーズ	642,073トン	前年同月比	+3.3%	前月比	+1.8%
(うちアメリカンチーズタイプ)	374,379トン	前年同月比	-0.8%	前月比	+3.0%
NFDM(食用)	144,311トン	前年同月比	+7.4%	前月比	+4.8%
ホエイパウダー	34,858トン	前年同月比	-21.7%	前月比	+12.5%
WPC	29,064トン	前年同月比	-9.0%	前月比	-1.0%
乳糖(食用、餌用)	40,599トン	前年同月比	-38.4%	前月比	-12.4%

- 2018年8月末バター、チーズ在庫量 -

バター	132,035トン	前年同月比	+3.8%	前月比	-8.6%
チーズ	617,193トン	前年同月比	+1.9%	前月比	-3.8%
(うちアメリカンチーズタイプ)	357,414トン	前年同月比	-1.7%	前月比	-4.4%

(為替レート USD=¥114.00を使用)

＜ロサンゼルス駐在 Lacto USA Inc. 佐藤、高野＞

出典:
AGRA EUROPE 各誌
Daily Dairy Report
Dairy Industry Newsletter
農畜産業振興機構“畜産の情報”
AMS Dairy Market News
日刊酪農乳業速報
Rice Dairy
NZ Herald
Stuff.co.nz
食品産業網
Weekly Times
USDEC Export Trade Data
Global Trade Information Service
USDA's Dairy Market News
Australian Financial Review
食品産業サイト
経済日報
東方ネット
長三角乳業

ディスクレーマー

1. 株式会社ラクト・ジャパン(以下「当社」といいます。)は、「乳製品情報」(以下「当資料」といいます。)に記載されている情報については相応の注意を払っておりますが、その内容の完全性、正確性、適切性等について、いかなる保証も行うものではありません。そのため、当資料に記載されている情報・資料を利用するなどの、利用者の行為に関連して生じたあらゆる損害等について、理由の如何に関わらず、一切責任を負いません。また、当記事に記載されている情報には、第三者が提供しているものが含まれていますが、当社は、その内容の正確性等については一切の責任を負いかねますので、予めご了承ください。
2. 当社は、事前に予告することなく、当記事の内容を変更等することがありますが、それに関連して生じたあらゆる損害等について、理由の如何に関わらず、一切責任を負いません。
3. 当社の許可なく当該情報の一部または全体を転載、二次使用すること、ならびに当該お客様以外に開示することは固くお断りいたします。